

令和5年度 学校推薦型選抜Ⅰ

教育学部（中等教育コース 家政）

小論文 出題意図

問題1

生活に関わる諸事象の中でも、男女の仕事と家事・育児、生活経済の問題について問うために、令和3年6月に法律改正のあった「育児休業」について出題した。

解答は、①日本における男性の育児休業取得率が低い原因について理解できているか、②男女とも仕事と育児を両立できるようにするための方策を、制度面、家庭生活の面、教育の面から述べられているか、③方策について自分の考えが具体的に述べられているかを見る。

【問題2 出題意図】

乳幼児期における言葉の発達過程を理解し、言葉の発達を促すために必要な周囲の関わり方や取り組みを工夫できるか、という観点から評価する。

【問題2 採点基準】

- ① 出題の文章の意図を正確に読み取り、自分の言葉で表現できるか。
- ② 言葉の発達段階については、下記の内容を具体例とともに説明できるか。

段階	詳細
喃語期 (0歳-1歳)	2か月頃になると、発音の基礎である喃語がみられ、「アー」「ウー」「アーアー」「ウーウー」とかいった意味のよくわからない音声を発するようになる。7-8か月頃には、子音と母音が繰り返される反復喃語（たとえば、バババやマママ）を発するようになる。
一語文期 (1歳-1歳半)	1歳を過ぎると、話としては初めて意味のある音声『初語』を発するようになる。また、「ウマウマ」「マンマ」「ワンワン」「ママ」といった一語文（片言）をいい始める。一語文は単語であるが、「ブーブー(車に乗りたい)」「ブーブー(車が来るよ)」といったように状況に応じて、様々な意味を伝える役割を果たす。
二語文期 (1歳半-2歳)	この時期になると象徴機能が形成されてくるため、名詞を中心とした語彙数が著しく増加する。「ブーブー・ナイ」(自動車が無い)、「コレ、コワイ」といった文法構造をもつ二語文も出てくるようになる。
羅列・模倣期 (2歳-3歳)	思ったことが言えるようになるが、それは知っている言葉の羅列であることが多い。「コレ・ダメ・ネ」といった単語のつながりも長くなり、文法らしき形態もみられるようになる。人（主に親や保育者）の言葉を盛んに真似る。生活のいろいろな面で「あれなあに?」「なぜ」「どうして」といった質問を盛んにする。
多語文期 (3歳以降-)	日常生活に差し障りのない程度の会話がこなせるようになる。文法上でも、接続詞、従属文、現在、未来の大雑把な使用が可能になり、「きのう」「きょう」「あした」といった語彙も出現する。5歳頃になると、会話においても、話し相手に応じた対話が一応できるようになる。また、口に出さずに頭の中で考える（内言）ことができるようになる。